

癒

*Relaxing trip around the Mediterranean*

# やされる地中海周辺旅行

あるロンドン、コロナ病棟患者の回想

*joe & nobby*

ジョー&ノビ

青山ライフ出版



## まえがき

さんさんと輝く太陽、透き通る遠浅のビーチ、グルメ料理、  
可愛い猫さんとの出会いを求めて旅に出た……



ケファロニア島からロンドンへ向かう飛行機の中からの眺め

## 癒やされる地中海周辺旅行 ◆ 目次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| まえがき .....                 | 2  |
| コロナ回復病棟 1 日目～4 日目 .....    | 5  |
| コロナ前、コロナ禍の中のホリデーの思い出 ..... | 8  |
| 病棟 5 日目 ニース、モナコ旅行 .....    | 8  |
| 病棟 6 日目 ネルハ旅行 .....        | 13 |
| 病棟 7 日目 .....              | 17 |
| イビサ島、フォルメンテーラ島旅行 .....     | 17 |
| 病棟 8 日目 マルタ島旅行 .....       | 20 |
| 病棟 9 日目 ザキントス島旅行 .....     | 24 |
| 病棟 10 日目 水の都ベニス旅行 .....    | 27 |
| 病棟 11 日目 マヨルカ島旅行 .....     | 30 |
| 病棟 12 日目 タソス島旅行 .....      | 34 |
| 病棟 13 日目 ベニドルム旅行 .....     | 37 |
| 病棟 14 日目 ケファロニア島旅行 .....   | 41 |
| 病棟 15 日目 西地中海クルーズ .....    | 44 |
| 病棟 16 日目 コルフ島旅行 .....      | 47 |

|                        |    |
|------------------------|----|
| 病棟 17 日目 ロードス島旅行 ..... | 49 |
| 病棟 18 日目 退院 .....      | 53 |
| 自宅でリハビリ .....          | 55 |
| コス島旅行 .....            | 57 |
| 2 回目のケファロニア島旅行 .....   | 64 |
| まとめ .....              | 68 |
| あとがき .....             | 70 |
| 著者プロフィール .....         | 72 |



## コロナ回復病棟1日目～4日目

私は夢をみていた。夢の中で南エーゲ海リゾートの宮殿のような建物の中で、天井まで届く大理石の階段の上で友人と座っていた。

すると場面が変わって、私はベッドに両手を左右に縛られて、身動きができないまま横たわっていなければならなかった。友人に「ここに居ると1日1ユーロ貰えて滞在費は無料よ」「近くには市場もあって馬車で行けるの」と言っていた。だが友人は先に自由になって去って行った。

私は身動きができないまま母に助けを求めたが、母はもう居ないことに気が付いた。何とかしてこの場所から逃れたかった。白衣を着た男女が入れ替わりラボラトリーのような広い空間の中を行ったり来たりしていた。時々白衣を着た人が私の所に来たが、私は縛りつけられたまま誰も解き放してくれなかった。

やがて私はベッドに横たわったまま移動させられて、パリ行きのユーロスターが発着する駅の構中のある部屋に居た。女性の声で誰かが「目を覚まして」と言ったが「とても怠け者なので起きられないの」と答えていた。

やっと夢から目を覚ますと私は窓側のベッドに横たわっていた。見覚えのない人たちが、私に声をかけたり手を振ったりしていたが、誰なのか思い出すことができなかった。毎日、立ち替わり医師が来て「生年月日を言えますか？ 1年の月の名前

を12月から逆に言えますか？」と聞いた。私の首の回りにはチューブが4本刺され、右横には点滴が置かれていた。患者用の背中で紐を縛るコottonの寝間着を着せられ尿を溜める用器も付けられていた。

隔離病棟にはあと3つベッドが置かれていた。女性患者たちがそれぞれ酸素ボンベから酸素吸入していた。私は酸素ボンベを付けていなかったし痛みも無かったので、軽症なのだろうと思った。

すると近くに居たアジア系英国人の若いナースが「あなたは最初、5階の集中治療室で2週間ちょっと治療を受けて、その後、12階のこの回復病棟に移ってきて、3日間ずっと眠っていたの」

「あそこの向かい側のベッドに寝ていて酸素ボンベで酸素吸入していたのよ」と言った。

私は2020年のクリスマスイブの前日、旅行仲間の友人が呼んでくれた救急車でハムステッドヒースの南側にある病院のA&E（救急）に運ばれた。大きな機械で胸を撮影された後、12階の小さな部屋に移されて、夜遅くまで待っていた。ジャマイカ系英国人のベテランナースが呼んでくれた病院付きの快活な金髪の短いボブの女性牧師が来てくれて一緒にお祈りをしたことを思い出した。

私はクリスマスも英国のEU離脱も新年も記憶がまったくなかった。

夕方になると陽気なフィリピン出身の食事係の男性スタッフがやってきて、患者さんから次々と注文をとっていた。食事は冷凍食材を使っているとは言え、前菜、メイン、デザート、食

後の飲み物がついていた。メインはベジタリアンのチョイスもあり栄養も味も充実していそうだった。

私は食欲はあったが、胸に挿入されたチューブが声帯を傷つけて、ほとんど声が出ない状態で水を飲むのもやっとだったので、しばらくの間、点滴で栄養を補給されていた。



ハムステッドヒース近くのある病院



## コロナ前、コロナ禍の中のホリデーの思い出 病棟5日目 ニース、モナコ旅行

回復病棟に移ってから5日目に旅行仲間の友人から電話がかかってきた。声あまり出ないことを詫びると、「5月のトルコのホリデーに行けるか自信がないの」と言った。友人は「まだ時間があるから様子を見よう」と答えた。

ベッドで横になっていると、北欧風の顔だちをした女性の喉の専門医がやってきた。私の声が回復するのに6ヶ月くらいかかること、検査をして治療してくれると優しい声で言った。

私が日本人だとわかったようで、医師は「いつか日本に旅行に行ってみたい」と言ったので「京都、奈良は是非いらっしゃるといいですよ」と答えた。

医師が立ち去ると、私はベッドから窓の外を眺めながら、2012年に友人と最初にホリデーに行ったニースとモナコのことを思い出していた。

私はビーチ沿いのプロムナード（長い遊歩道）に近い4つ星のプチホテルで、友人の到着を待っていた。友人はニースの前にパリ旅行をした際にパスポートを紛失した。急遽、クロイドンにあるホームオフィス（内務省）に2回出かけて再発行してもらい、遅れてロンドンをたった。

ホテルになかなか到着しないので、どうしたのかしらと思い